



発行所
日刊自動車新聞社
東京都港区芝大門1丁目10番11号
購読料 1カ月5343円+税
電話 東京(03)5777-2351代表
©日刊自動車新聞社2020

4月22日
(水曜日)

勝機到来

-52-

ダイヤモンドエレクトリックホールディングスは、ダイヤモンド電機的主力である点火コイルの新製品開発と、田淵電機のパワーコンディショナー技術を生かした電気自動車(EV)向け技術の研究開発を加速している。点火コイルでは、ダイハツの新型「タレント」に新技術を盛り込んだ「マルチ点火コイル」が採用された。EVの普及で点火コイル市場は縮小すると言われているが、同社は需要が見込めるとして点火コイルの技術革新を続ける。

(藤原 稔里)
—2019年度を振り返り—

点火コイルの世界シェア獲得続ける

ダイヤモンドエレクトリックホールディングス

小野 有理社長



めない。点火コイルメーカーとして生き残るためにも開発力で勝負する」

「マルチ点火コイルを新たに開発した」

「生活の足となる軽自動車に採用され、社会の役に立たと実感している。マルチ点火コイルは小さい車でもパワーのある走りができるという認識している」

特徴がある。われわれ部品メーカーは単独では意味がなくて、自動車メーカーの方向性に合った製品を開発することが最大の役割だ。今回マルチ点火コイルを活用した技術は自動車メーカーや部品メーカーが社会にどう貢献していくかを考えて作り出されたという認識している」

「点火コイル開発の方向性は、大阪と東京は拠点を集約した。垣根を取り払った形で互いに交流を深めている。ダイヤモンド電機は自動車、田淵電機は家電向けが主力だ。それぞれの強みを生かして、車と家をもつくりでつないでいく方針を掲げている。災害時にEVから家庭に電力を供給するなど、生活における貢献度を高めた」

「20年度の見通しは、新型コロナウイルスの影響などで、現在の世界経済動向からは先は見えない。ただ20年度もパワーコンディショナーの成長性を期待するとともに新たな点火コイルの開発を進めていく」

車と家ものづくりでつなぐ

「プロファイル」おの・ゆうり 2001年早稲田大学第一文学部卒、同年10月経営コンサルティング会社に入社、05年に独立して中小企業のコンサルティング事業を展開。16年ダイヤモンド電機代表取締役社長、18年10月ダイヤモンドエレクトリックホールディングス代表取締役社長CEO、19年1月田淵電機代表取締役社長を兼任。大阪府出身。

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。

掲載日 2020年4月22日 日刊自動車新聞 3面
©日刊自動車新聞社 無断複製転載を禁じます。